

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600172		
法人名	株式会社アミタ		
事業所名	グループホーム カノンしもがも		
所在地	京都府京都市左京区下鴨松ノ木町64-50		
自己評価作成日	R5年 7月24日	評価結果市町村受理日	令和5年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690600172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和5年8月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念である“慈悲の心＝ありのままを受け入れる”という視点で、その人らしさを中心に考えるようにしています
 ・入居者が生活しやすいアットホームな環境づくりに取り組んでいます
 ・下鴨神社や鴨川・植物園が近くにあり、散歩や外出を通して常に季節や京都らしさを感じられる環境にあります

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームカノンしもがも(1ユニット)は株式会社アミタの傘下として、2016年3月に開設されました。現在、利用者の平均年齢は89歳、平均介護度は3.2です。地域から地藏盆や盆踊り大会のお知らせやお誘いも受けるようになり、利用者とともに参加を予定しています。また、今年100歳を迎える利用者のお祝いの企画や、ゴムで飛ばすクラッカー作りなど、多忙な業務の中取り組む職員の優しさがあります。当事業所は隣接して訪問看護ステーションがあり、看護師、理学療法士、作業療法士の協力で、個別リハビリ体操の指導やレクリエーション活動への助言、看取りにおいても看護師の助言のもと「看取り介護計画」を立案し、最後の時を家族とともに介護しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		ha		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	39sai	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オリエンテーション時に行っている スタッフの入れ替わりもあり、今後、体制を再構築するに当たり、理念の共有を図り同じ方向を向いて実践につなげたい 年間のスローガンを検討している	会社理念「慈悲の心」と、行動規範(5つの柱)をもとに、事業所での2023年度テーマ「“理解を深めよう”もう一度入居の方みんなのことを知ろう！！スタッフも自分のことを知ってもらおう！！」を掲げて、職員の交代による体制の立て直しに取り組んでいる。入職時や個人面談時にも話している。業務中心ではなく、利用者主体で認知度や利用者の行動を理解しているかなど、諸会議や申し送り時にも検証している。理念や単年度目標はリビングの職員の目の届くところに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の行事などに参加しているが今年春まではコロナ禍でつながりがなかったが、5月以降行事に参加予定	町内会には参加しともに活動していたが、コロナ禍では自粛していた。昨年秋の地域の防災訓練から再び参加している。今年から地蔵盆も再開され、企画会議にも管理者が参加している。地蔵盆では老人対象にゲーム枠がある。また、保育園から声がかかり、6月に来所があり歌や花のプレゼントがあったが、この時期グループホーム利用者にコロナが発症し、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所でおこなわれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であまり貢献できていない			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度5月開催の会議から通常通りの開催している 地域の代表者のメンバーの入れ替えがあり新しい視点での意見が出ている 運営に関しての不明な点などは相談・確認のため連絡とっている	今年5月から対面での会議である。会議メンバーが10人を超え、医師の参加も得ている。また、民生児童委員が2名に増員された。下鴨社会福祉協議会会長から「健やかサロン」でフラダンス観賞の企画があり、招待された。他のメンバーからも地域情報の提供は多い。インシデント報告に助言がある。家族に会議への案内を出し、議事録を送っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関しての不明な点など相談・確認の連絡を取っている 地域包括の集まりや会議に参加している	運営推進会議議事録や事故報告書は手渡し（時に郵送あり）している。コロナ発生時には助言や指導があり、サチュレーション（酸素飽和度）測定器、抗原キット、マスクなど支給があった。日頃から相談のできる関係である。左京区事業者連絡協議会の例会や勉強会、地域ケアマネジャー会議に職員が参加し伝達がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置している 委員会で勉強会なども企画して行うようにしている 内外の研修に参加して正しい知識をスタッフが持てるようにしている	3か月ごとに身体拘束委員会と虐待防止委員会をおこない、内部・外部の研修にも参加している。目標達成計画で、議事録の作成や毎月のPCS会議（職員会議）時に不適切ケアの話し合いを10～15分持つ、手順書作り、認知症の勉強などを立案し、取り組んでいる。不穏の利用者やコミュニケーションの難しい利用者対応も、細やかに対応している。（PCSとは、パーフェクト ケア スタッフの略である）	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置している 委員会で勉強会なども企画して行うようにしている 内外の研修に参加して正しい知識をスタッフが持てるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり時間を割いていなかったが、成年後見人を立てた人がいることをきっかけに学ぶ機会を作っていくたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明だけにとどまらず、疑問点や不明点はないか、必ず尋ねるように心がけて理解・納得してもらうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置 相談窓口の重要事項説明書に記載と案内 コロナ禍で、昨年は開催が十分に行えていなかったが、運営推進会議に出席してもらうようにしている	事業所はコロナ禍でも面会や家族との外出は自由である。買い物や外食、送り火見物など出かけている。顧客満足度調査を年1回おこなっているが、意見や要望、相談は直接言われる家族が多い。必要に合わせて検証して報告し謝罪する事例もある。また、家族会は再開できていないが、家族からの諸意向は家族会で報告していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なPCS(スタッフ)会議行ない、意見・提案できるようにしている また、個別の面接の機会も設けている	毎月のPCS会議で、職員意見を聞き取っている。最近の大きな要望として、男性職員の増加に伴い、広い更衣室や休憩室の設置がでている。会社では、隣接している家屋(空き家)を購入し、新たな事業所の設立計画が進行しており、そこに組み込まれることとなった。管理者と職員の個人面談の機会も年2回ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談・人事評価を公平に行ないモチベーションアップに努めている 男性更衣室や休憩室の拡充の要望があり、会社への働きかけをするなど環境面での意見も聞き取り対応するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画の立案 今年度は、WEB研修も取り入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍・人員不足で思うように外部の研修・特に勉強会に参加が出来なかった		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後、安心できるように声を掛け、思っていることが聞き出せるような雰囲気作りやコミュニケーションを図るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・契約時に十分なオリエンテーションを行い、不安なことや要望などを話してもらえるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネなど関係しているところへ情報収集を行い、他のサービスも考慮しながらその時必要なサービスを受けられるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きなど家事の手伝いを時にはスタッフも一緒に行っている スタッフがお礼を言うだけでなくほかの入居者同士で感謝を述べることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の対応で困りごとは、ご家族様にも相談して一緒に考えてもらう、協力してもらうようにしている 外出時での排泄などの介助方法を伝えて安心して外出できるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で途絶えてしまっていた 少しづつつながりを再度作っていきたい ドライブで、なじみの場所や自宅付近までいっている	利用者の高齢化やコロナ禍の影響で手紙のやり取りが途絶えた方もあり、家族(孫、曾孫)との交流が中心である。馴染みの美容院に通う方、孫が美容師で来所時に整髪をしてもらう方もいる。縫物をする、お茶を点て、お茶会をする、月請求やお金の計算を依頼するとそろばんで計算するなど、利用者の得意分野で力の発揮がある。洗濯物たたみや食器洗いも継続している。季刊紙「カノン新聞」に利用者、職員の言葉を載せて家族に届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席のレイアウトを必要に応じて変更してコミュニケーションが取りやすいように考えている 一緒に物づくりを行える機会をつくったり、スタッフが間に入りコミュニケーションがとれるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、しばらくは様子を尋ねるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努めている 誕生日には、食べたい料理をリクエストできるようにしている	日常的に利用者の意向は聞き取る努力をしている。日々聞き取った利用者の意向は介護ソフト「ワイズマン」の介護支援経過や業務日誌に書き申し送っているが、介護支援経過(タブレットで打ち込み)への記録は少ない。	利用者から聞き取った意向は、できるだけ介護支援経過に残し、ケアに生かすことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使い把握に努めているが、新しい人への情報収集が不十分		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせて、できる・楽しめるレクリエーション企画に努めている 日々、変化のあることを意識して見極めて支援できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のケア会議（必要に応じてミニカンファレンスなど適時開催）、ご本人・ご家族へのモニタリングで要望を反映できるようにしている	ケアプラン内容はチェックリストで、できたかできなかったか、毎日記録している。毎月のケア会議でも一人一人の状態について検討している。モニタリングは「モニタリング一覧表」を用い、3か月ごとに担当介護士がおこなっている。サービス担当者会議は1年ごとと必要にあわせおこない、本人、家族の参加がある。中に、課題の記述内容が目標の根拠として希薄なものがある。	フェースシートで利用者の情報を多角的にとらえ、アセスメントができています。そこからとらえた介護課題で目標を立て、サービスを提供されると、目標の根拠がより明確になると期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表の活用 タブレットにて記録しているが普段の言葉や行動のきちんとした記録が不十分と思われる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的になっているように思う		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で資源の活用が難しい面もあったが、地域資源の掘起こしが必要と考えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望をふまえて決めている	入所時に希望を聞き、在宅時のかかりつけ医を継続し家族と受診（月1回）される方4名、協力医療機関より月2回の訪問を受ける方5名である。医師には適宜相談もして指示を得ている。相談のみか、往診も可能かは医師により異なっている。外部の医師への情報提供は、家族に口頭で伝えたり、直接ファックスなどでしている。また、訪問看護（週1回）を受け、緊急時や夜間、24時間のオンコール体制での対応がある。現在7名の方が月1回の訪問歯科診療を受け、必要に応じて往診を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適時、報告・相談し適切な対応がおこなえるよう努めている 毎週、訪問看護に来てもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、必要に応じ地域連携室や病棟看護師に連絡を取り、情報共有を図り早期退院に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前後に意思確認(ききとり)をおこなうようにしているが、情報が古く更新が必要である もしばなゲームの活用	入所時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」「看取りに関する指針」に沿って説明し、「看取りについての同意書」に署名を受けている。「意思決定支援用紙」に、利用者情報や本人の意思(過去・現在・未来について)をまとめている。「もしばなゲーム」を用いて、認知症で言葉が出ない方からも、カードを選ぶことで会いたい人や行きたいところなど、本人の意向を具体的に聞き取っている。担当職員が看護師のフォローを受け、フローチャートを活用した「看取り介護計画」を作成し、家族と情報を共有している。ターミナル期は家族の面会も自由で、他の利用者も居室を訪れて見舞っている。告別式と49日に職員の参加がある。職員は振り返りをおこない次に生かしている。今年度1名の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でAED/蘇生方法の勉強会を行うようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練の実施 地震・水害訓練はBCP関連から今年度実施予定	年2回の消防訓練は火災(昼・夜間)想定でおこない、避難口までの避難訓練をしている。だが、有事の際はフロア中央の階段を使用するように、消防署からアドバイスを受けており、日頃から利用者と階段を利用している。河川が近くにあり、水害時は2階フロアでの待機としている。今年度は連絡網に沿って、職員が何分で集まれるか、地震のマニュアル通りにやってみての検証など、実質的な訓練を計画している。訓練時に地域の方に声かけはしているが、コロナ禍でもあり参加はない。	諸訓練に地域の方の参加が得られていません。まず運営推進会議メンバーに参加していただき、課題を見極めたり、地域の方たちの協力を得るための助言を得られることを期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけて対応するようにしている	接遇、プライバシー保護について社内研修をおこなっている。日頃からトイレや居室を開けっ放しにしないように気をつけている。トイレに誘導する声かけも他者に聞こえないよう留意している。職員はお互いに声を掛け合うように努めているが、さらに気になる時には管理者が注意している。居室に他の利用者が入ることがあり、希望で鍵をかけることがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しませんか」「どちらにしますか」など意思が言えるような言葉かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事のペースも自己決定を尊重するようにしている 起床・就寝時間も個々人の生活パターンになるべく合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、鏡をみて整容してもらったり、髭剃りを出来るようにこえかけ、準備してご自身で行えるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は、食べたいものを食べてもらうようにしている 盛り付けやお茶の準備などの手伝いを一緒に協力している	昼食と夕食は近隣の関連事業所厨房から温かいうちに届く。台所で利用者とともに盛り付けをおこなっている。朝食は食材が届き、管理栄養士のメニュー通り料理している。細かい刻みはフードプロセッサーを使用し、必要に応じてとろみをつけて提供している。誕生日は本人の希望の献立を取り入れ、月に1～2回はみんなに希望を聞いて行事食や食事レクリエーションを企画し、買い物から利用者も参加できるように努めている。出前やデリバリーも楽しんでいる。誕生日ケーキの装飾やフルーチェ、ティラミスなども、利用者と一緒に作っている。見守りによって包丁を使える方も数人いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表にて把握に努めている 一日1000ml目安で、必要な人には水分量の目標を個別に設定している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	こえかけ、誘導を行い毎食後の歯磨きを、可能な限りご自分でおこなってもらい、不十分なところは手伝い清潔保持に努めている 月1回の訪問歯科での定期チェックと相談をしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としてサポートしている 昼夜でその時にあったオムツを検討・選択を心がけている 行きたくない時は、タイミングを見て声かけるなど工夫している	タブレットにより排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。トイレ誘導の声かけを拒否された時は時間を置いて試みている。リハビリパンツを使用している方がほとんどである。夜間は希望される方はトイレまで誘導し、睡眠が必要と思われる方は無理に起こさず、おむつで対応している。ポータブルトイレは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	タブレットにて排便状況の把握をおこなっている 毎日の体操や飲み物を数種類用意して水分が摂れる様にしたり動きがあったときにトイレに誘うなど工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴としているが、時間は決めていない なるべくスタッフ都合にならないように意識し、可能な限り臨機応変に対応するように努めている	週に2回、午前中の中入浴を基本としているが、染髪など訪問理美容の内容に応じて午後から入浴することもある。現在同性介助の希望はないが、対応できる職員体制である。浴槽に浸かれない身体状況の方はシャワーと足浴併用で対応している。お湯は毎回一人一人交換し、季節湯(ゆず、菖蒲)も楽しんでいる。入浴拒否のある方も時間や日にちを替えることにより、入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調整や個々の就寝・起床時間に合わせて対応 適度の午睡やその人の様子を見て休息がとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は常に見れるようにファイルしている 薬の効果や疾患との関連性への理解・意識の引き上げに努めたい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ること(家事や昔の趣味などを活かせるレクなど)を一緒に行うようにしている アルコールやコーヒーなどの提供をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望をかなえられるように、その日だけでなく希望に添えるようにしている	コロナ禍であっても散歩は継続していた。気候の良い時は、空き時間を使って毎日散歩に出かけている。周辺環境に恵まれていることもあり、鴨川まで桜を見に行ったり、日常的に下鴨神社や植物園にも出かけている。ドライブをかねて必要なものを買いにショッピングセンターにも行っている。送り火の時には家族と妙法を観に出かけられた方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を管理して、買い物に行った際は支払いができれば支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば電話をかけつなぐようにしている 個人の携帯電話の所持をしている人もいる 定期的(年4～5回ほど)にお便りを作成し送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく使えるように、毎日の掃除と整頓を心がけている 季節感あるディスプレイを心がけている	事業所の玄関には道路に面してベンチが設置され、近隣の方も座って休めるようになっている。入り口にはメダカを飼育している鉢が2つ置いてある。中庭ではプランターで花を植え、パラソルのついたテーブルセットが配置されている。事業所は2階にあり、リビングは明るく、壁には利用者の作品や、日頃の行事の写真を飾っている。洗面所はホールに面して2か所あり、大きな鏡がフロアの広がりを感じさせる。殺風景になりがちなトイレの壁を職員がリフォームし、おしゃれな壁紙を貼っている。フロアの掃除は夜勤職員が担当し、清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのレイアウトやソファの活用		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	無頓着な人もいるが、使いなじみのある家具やものを持ってきてもらっており、それぞれの好みを活かした空間になっていると思う	居室はエアコン、カーテン、レンタルのベッド以外は自宅で使っていた鏡台など、各自気に入ったものを持参している。以前は多くのものがあつた居室も、認知症の進行により整理して、衣装ケースやタンス程度ですっきり片付いている。家族と協力して突っ張り棒を使って天井までのディスプレイ空間を作り、多くの写真を飾られている方もいる。テレビやCDプレイヤーを置き、洋楽の好きな方は居室のソファに座ってゆっくり音楽を聞く時間を持っている。掃除は職員が毎日おこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす自走できるように通路の確保をしている トイレの表示 バリアフリー、手すりの設置 居室に名前の表示や顔写真の掲示をするなど工夫している		